



めいしょえ どひやっけい うえの きよみず どうしの ぼずの いけ
名所江戸百景 上野清水堂不忍ノ池
 歌川広重／画 安政3年(1856)4月

清水観音堂は、京都の清水寺を模したもので、崖の上にせり出すように建てられたため、景色の良い場所であった。当初は摺鉢山に建てられたが、根本中堂の建立にあわせ、元禄7年(1694)に現在の場所に移築された。

桜の名所としても知られ、本図のようにお堂の周囲は満開の桜で囲まれていたため、見物客で大変賑わった。しかし境内のため、騒ぐことはできず、境内を散策するなど静かに楽しんだようである。



とうえいざんもんじゅうやまうち の ず
東叡山文殊楼焼討之図
 月岡芳年／画 明治7年(1874)12月

本図は「慶応戊辰五月十五日」とあるように、慶応4年(1868)の上野戦争を描いた図。寛永寺の常行堂と法華堂を結ぶ渡殿での戦いの場面で、その向こうの文殊楼にはすでに大きな火の手があがっている。



えほんえどみやげごへん
絵本江戸土産 五編
 せんもんすりばちやまはなみ
(山門摺鉢山花見)
 歌川広重／画
 江戸時代末期



ぼしんせんきえまきとうえいざんもんじゅうのぶ
戊辰戦記絵巻 東叡山文殊楼之部
 松岡緑堂／画 明治24年(1891)

「戊辰戦記絵巻」は、戊辰戦争の主要場面を記録に残すため、明治16年(1883)に企画立案、明治22年(1889)に原画が完成して明治天皇に献上された。その後、明治24年(1891)に保勲会によって頒布された。

うえ の こう えん 上野公園

上野戦争で多大な被害を受けた寛永寺の寺域は、さまざまな思惑が交錯した結果、医学校や病院の建設予定地にされた。しかし、明治3年(1870)に上野を視察したオランダ人医師・ボードワンの提言により、寛永寺(上野公園)は浅草寺(浅草公園)、増上寺(芝公園)、富岡八幡宮(深川公園)、飛鳥山(飛鳥山公園)とあわせて、明治6年(1873)に公園に選定された。

明治9年(1876)に東京府から内務省に移管されると、翌年には第1回内国勸業博覧会が開催された。その後もさまざまな博覧会の開催場所となり、それに応じて公園の整備が進められるようになる。明治23年(1890)には御料地となるが、大正13年(1924)に皇太子(のちの昭和天皇)の御成婚に際して東京市に移管され、正式名称が「上野恩賜公園」に改称された。



とうきょううえの こうえん ちじつそくず
東京上野公園地実測図
内務省地理局量地課/作 明治10年(1877)

明治6年(1873)、東京府が寛永寺の境内地を公園に指定する。その後、博覧会を開催するため、明治9年(1876)に公園の所管が内務省博物局に移るが、本図は博覧会の実施にあたり調査・作成されたものと考えられる。

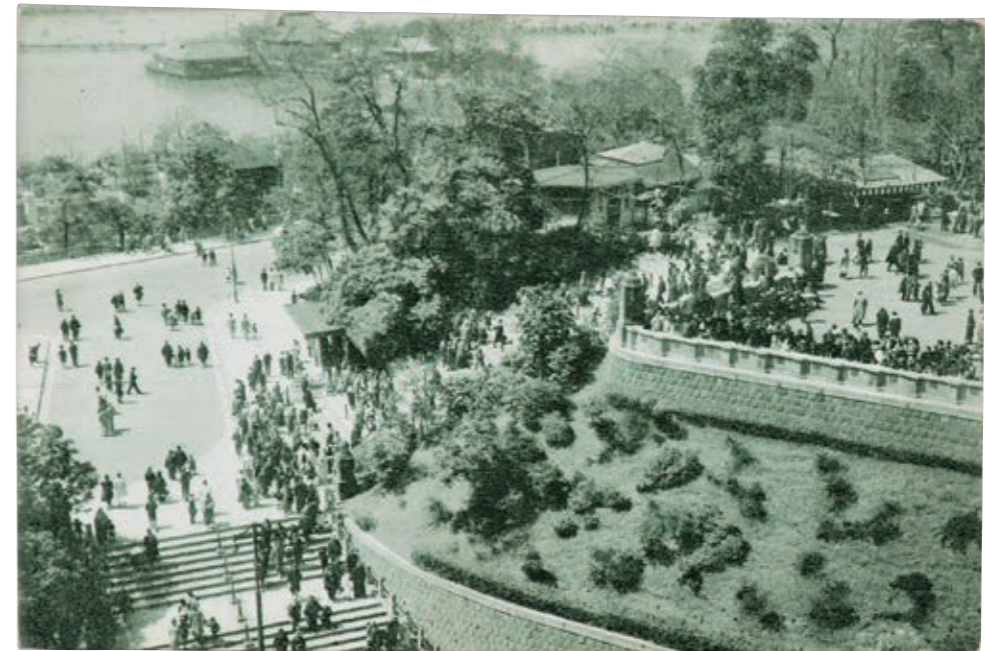
凡例にある通り、道路などは整備したが、工業(工事)は未だ途中の段階であり、徐々に発展させ多くの人々が楽しむ場所とすることを計画していた。



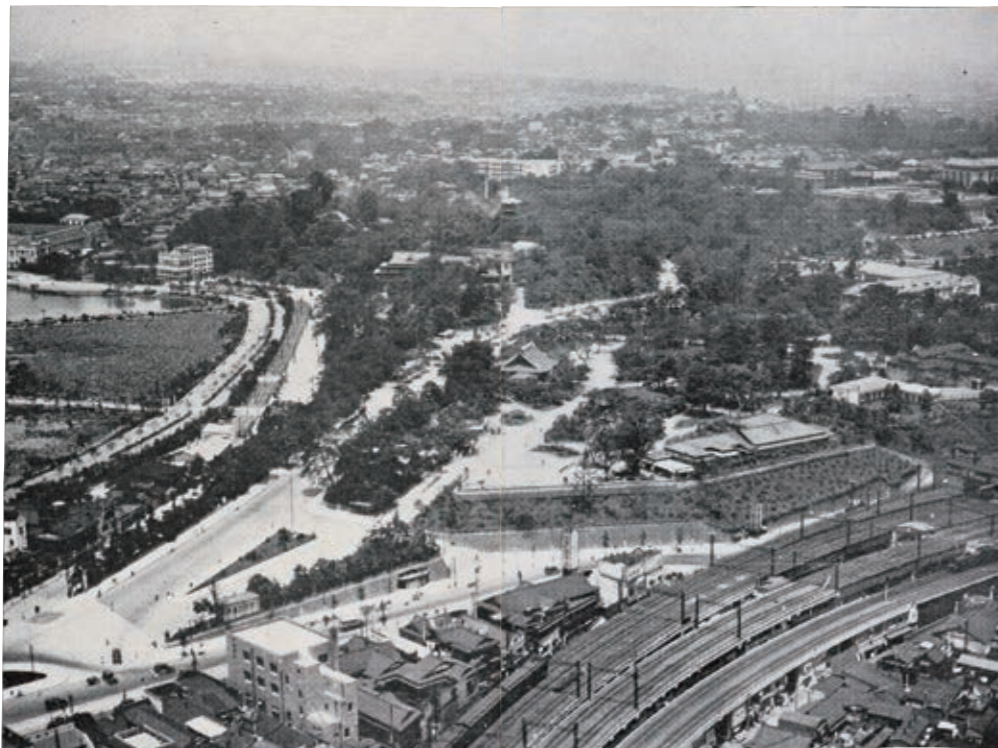
うえの さんのうだいさいごうたかもりどうぞう
上野山王台西郷隆盛銅像
楊斎延一/画 明治32年(1899)

西郷隆盛は明治維新を実現した中心人物だったが、政府と対立し、明治10年(1877)の西南戦争で自刃した。逆徒と扱われた一方で、西郷に対して敬愛を示す者も多かったため、明治22年(1889)の大日本帝国憲法発布に際して、大赦された。

これを記念して明治25年(1892)、銅像製作が東京美術学校に委嘱された。当初は皇居正門外に建設する予定であったが、西郷が西南戦争で皇室に弓を引いたため、上野公園に変更され、明治31年(1898)に除幕式が行われた。



とうきょうしんめいしよしゃしんえ うえの こうえん
東京新名所写真絵はがき 上野公園
昭和10年(1935)頃



空から見た上野 昭和時代前期頃



上野公園 彰仁親王の銅像
明治40年～大正6年(1907～1917)

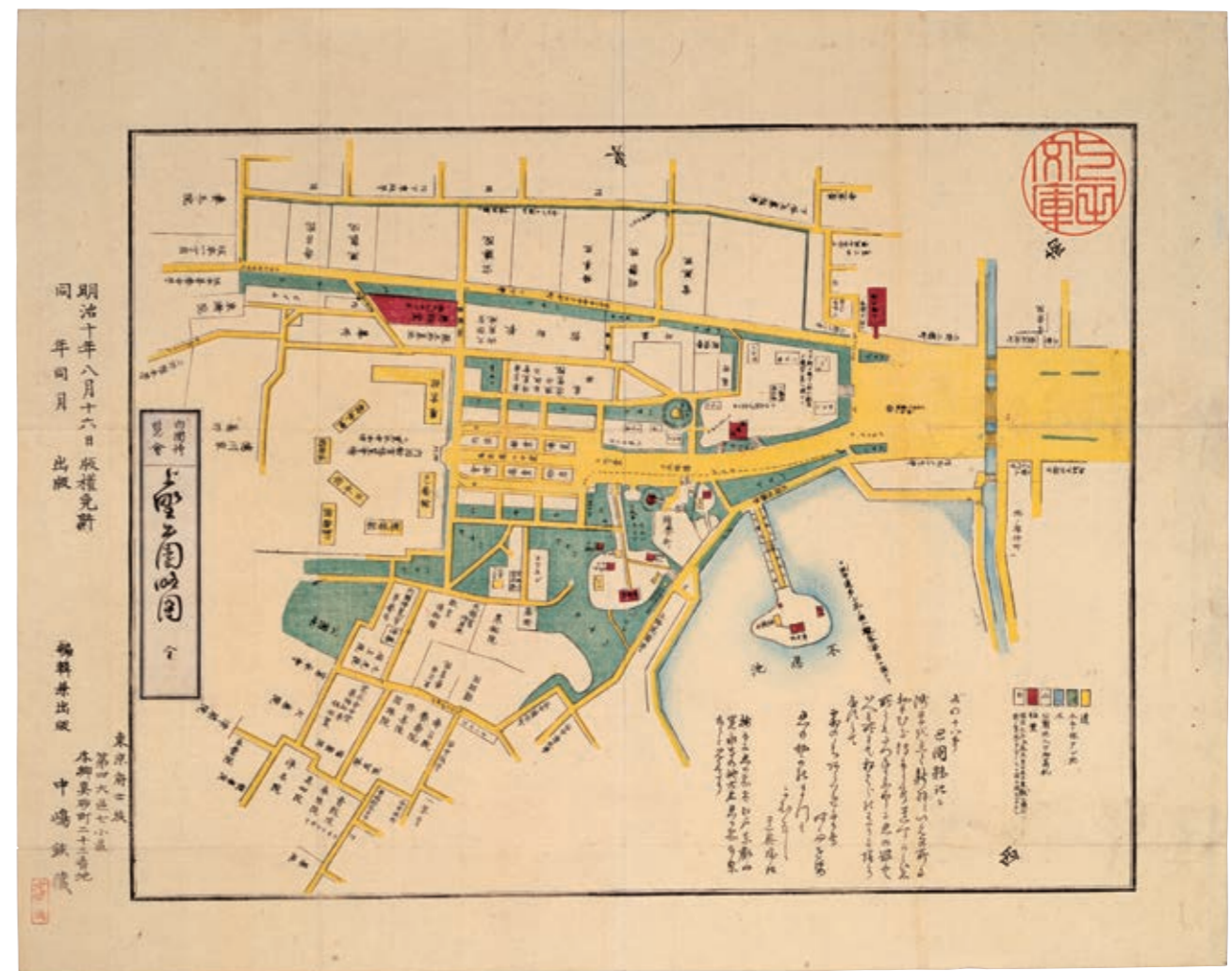
小松宮彰仁親王(弘化3年～明治36年(1846～1903))は戊辰戦争や西南戦争などで軍を率い、軍人として活躍した。一方で日本赤十字社の総裁を務めるなど、社会奉仕活動にも貢献した。現在も上野公園にあるこの銅像は、明治45年(1912)2月に日本赤十字社が建立し、3月18日に除幕式が行われた。東京国立博物館表慶館前のライオン像などを手掛けた大熊氏廣が製作し、そのうち台座は東京府美術館などを設計した岡田信一郎が担当した。

博覧会の聖地から文化の杜へ

明治時代の初め、政府は内務卿・大久保利通を中心に殖産興業政策の一環として、博覧会事業を推進した。岩倉使節団や海外の万国博覧会への参加を通して、博覧会が産業奨励に有効な手段であることを認識した政府は、国内規模に留めた内国勸業博覧会を上野公園で開催した。

明治10年(1877)に開催した第1回は、西南戦争やコレラの蔓延により、財政的な成功を収めることはできなかったが、産業を奨励するという意味では内国勸業博覧会の有用性を示す結果をもたらした。そのため、4年ごとに内国勸業博覧会を開催することが決定し、第3回までは上野公園で行われたが、財政悪化を理由に大阪で開催された第5回を最後に、内国勸業博覧会は終焉した。しかし、上野公園ではその後も東京府や民間による博覧会が開催された。

そして博覧会の聖地であった上野は、博物館・美術館をはじめとする文化・教育施設が集まる「文化の杜」として、現在も多くの人で賑わいを見せている。



内国博覧会上野公園略図
中嶋鉄蔵/編 明治10年(1877)8月

第1回内国勸業博覧会は、前年のフィラデルフィア万国博覧会を参考にし、①工業及び冶金術、②製造物、③美術、④機械、⑤農業、⑥園芸の出品区分で構成され、府県別に展示された。特に内務省勸農局が上野公園入口に出品したアメリカ式の風車は、博覧会のシンボリックな扱いとなり話題になった。



ないこくかんぎょうはくらんかいのず
内国勸業博覧会之図
 小林清親／画 明治10年(1877)8月10日

明治10年(1877)の第1回内国勸業博覧会の全体図を描く。画面右手には、内務省勸農局が出品したアメリカ式の風車が確認でき、博覧会のシンボルとして話題になった。西南戦争やコレラの蔓延により入場者数が予想よりも下回ったが、産業奨励策としての有効性が評価され、以後4年に1度開催されるようになった。



だいとうきょううえのこうえん びれいほくぶつかん びじゅつかんのぞ
大東京 上野公園の美麗博物館と美術館を望む
 大正15年～昭和7年(1926～1932)



だいとうきょうていしつほくぶつかん
大東京 帝室博物館
 昭和8～19年(1933～1944)



とうとうおかまんかいうえのどうぶつえんまえ おうかまんかい
東都桜花満開 上野動物園前の桜花満開
 大正7年～昭和7年(1918～1932)



とうきょうかがくほくぶつかんぜんけい
東京科学博物館全景
 昭和6年(1931)11月



THE BIRD'S EYE VIEW OF THE TOKYO TAISHO EXPOSITION
 大正3年(1914)

東京大正博覧会は、大正3年(1914)に大正天皇即位の奉祝と産業振興を目的に、東京府が開催した。会場は第1会場に上野公園、第2会場に不忍池とし、青山練兵場(現・明治神宮外苑周辺)と芝浦を分会場とした。本図は第1会場と第2会場の様子を俯瞰で表したものである。



とうきょうししたやくうえのこうえんち とうきょうびじゅつかうこう
東京市下谷区上野公園地 東京美術学校
 大正7年～昭和7年(1918～1932)



ていこくとしょかん
帝国図書館
 明治33～39年(1900～1906)